

患者さんへ

「小児病棟における胸肋挙上法術後の疼痛に関する実態調査」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2014年4月1日から2022年3月31日までに当院小児病棟に入院し、漏斗胸に対し胸肋挙上術を受けた15歳(中学生)以下の患者さん
2 研究目的・方法	<p>漏斗胸手術として多くの施設で行われているNuss法は、金属バーを体内に挿入し2-3年留置することで変形を矯正する術式です。Nuss法術後の疼痛コントロールとして、硬膜外麻酔、抗炎症薬の静脈投与、鎮痛薬の内服の3種類を併用することが疼痛対策として一般的です。身体的・精神的な発達過程にある小児期の患者さんにとっては、複数の薬剤を併用することは苦痛・負担となります。</p> <p>一方、当院で採用されている飯田浩司医師による胸肋挙上法は、助軟骨の一部を切除、短縮して縫合、再建し、肋骨によって両側に引いて矯正します。胸肋挙上法では「疼痛の遷延がない」という利点があると言われています。しかし、本術式を題材とした先行研究がなく、胸肋挙上術後の疼痛に関する実態が明らかになっていません。そのため、患者さんとそのご家族が術式選択を行う際の一助となるよう、本研究では当院小児病棟に入院した15歳(中学生)以下の患者さんを対象に、疼痛に関する実態を調査いたします。</p> <p>研究の期間:施設院長許可後~2023年11月</p>
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
4 研究に用いる情報の種類	情報:年齢、性別、手術時間、使用した鎮痛薬の種類・量・用法・総投与回数、離床日、食事摂取量、夜間睡眠状況、在院日数 など
5 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 森浦 志穂梨 湘南鎌倉総合病院 11階小児科病棟 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717</p>